

理 念

人道に基づき赤十字病院として
質の高い医療を提供します

基本方針

1. 人道を掲げる赤十字の原則に基づき、人々の健康と生命の尊厳を守ります
2. 人権を尊重します
3. 個人情報保護に万全を尽くします
4. 医療水準の向上に努め、最善の医療を提供します
5. 地域医療機関との連携により、個人に合った適切な医療を提供します
6. 救急医療の充実に努めます
7. 災害時の医療救護や国際救援に貢献します
8. 健全な運営に努め、未永く地域社会に貢献します



平成23年 年頭のごあいさつ 院長 村林 紘二

「伊勢志摩地域病院」を目指して

伊勢志摩地域病院の形成と 切れ目のない医療

平成23年の年頭に当たり謹んでご挨拶申し上げます。

さて、当院は1904年の開院以来、地域の診療所としての機能を保ちながら、入院医療も併せ行ういわゆる「病院完結型医療」機関として発展して来ました。しかしながら、急速に高度化する医療を提供し、また限りある医療資源を有効に活用していくには、これまでのように、病院完結型医療を続けていては、高度な医療サービスを提供することが出来なくなって参りました。

そこで、平成17年から地域完結型医療への転換を図ることと致しました。地域住民の皆様の御協力のもとより、地域の医療機関との緊密な連携が得られたことから順調に進み、当院は二次及び三次救急と急性期入院医療を中心とした診療を担うことが定着しました。即ち地域の医療機関が、役割分担をしてそれぞれの診療機能を発揮し診療に当るといえるものです。この形態を更に推し進めれば、地域全体が一つの病院、いわば「伊勢志摩地域病院」を形作ることとなり、地域の医療機関が一体となって、切れ目の無い医療サービスを提供出来ることとなります。既に慢性期の入院、リハビリ、在宅支援、通院治療などは、個々の「かかりつけ医」をはじめ他の医療機関にお願いしており、当院の平均在院日数の短縮に御協力頂いています。その結果、当院がお引き受け出来る

新入院患者数は、以前に比し30%程増加しました。これからも皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

今後の展望

現在、医療ソーシャルワーカーの交流が数病院との間でまわっていますが、将来は更に広い分野での人材交流も行っていきたいと考えています。こうすることで貴重な医療資源の共有化をはかり、無駄を省いた医療を提供できると存じます。これからも全職員一丸となって、地域医療を支えて参りますので皆様の御理解・御協力をお願い申し上げます。

ハイチ大地震被災者支援事業(コレラ救済)に 東看護係長を派遣

昨年1月に大地震により被災したハイチでは10月末にコレラ患者が発生し、感染は全土に拡大、感染者は9万人以上、死者は2120人を超えています。(政府発表12月4日現在)日本赤十字社は国際赤十字の要請を受け、医療チームを派遣することになり、当院からも東恵理看護係長が派遣されました。コレラは適切な治療がされれば死亡率の低い病気で、脱水症状を抑える治療と知識の普及が求められています。現地では首都ポルトープランス内の刑務所の患者治療やコレラ治療センターの立ち上げに従事し、12月19日約1か月間の任務を終えて無事帰国しました。



2010年7月にがん性疼痛看護認定看護師の資格を取得しました。

突然ですが、「がん性疼痛」と聞いて何を想像しますか。多くの方はがんによりお腹が痛い、足が痛いなど身体的な痛みを想像されることと思います。しか

し私たちががん性疼痛看護認定看護師は身体的な痛みはもちろんのこと、全身倦怠感やお腹の張り、電気が走る様な痛み、不眠、イライラ、日常生活への影響など、がんに罹患したことによ

糖尿病は生活習慣病です。食事や運動など日常生活そのものが治療になり、現代社会の多様化するライフスタイルの中での自己管理が重要となります。私は糖尿病看護認定看護師として、患者さんが生活の中でこのような治療を自

己管理し、血糖をコントロールできるようにお手伝いさせていただきたいと思っています。また、患者さんの中には、分かっているけどできない自分に対して悩み、苦しい気持ちを抱えている方もいらっしゃると思います。糖尿病を持ちながらも充実した生活を送っていただけるよう、その方にとって効果的で

続けられる方法は何かを一緒に考えていきたいと思っています。その他、フットケア外来の担当もしています。糖尿病に関してご心配・不安などがあればご相談ください。

